

第10回 高知県史編さん編集委員会 議事概要

日時：令和6年11月8日（金）12：30～15：30

会場：高知県人権啓発センター 6階 ホール

出席委員：藤井委員長、羽賀副委員長、井上委員、渡部委員、小幡委員

大門委員(リモート)、岩佐委員、松田委員、岡本委員、三浦委員、邑田委員

事務局：山崎企画監、土居補佐、目良チーフ、紀ノ國主幹、松本主幹、坂本専門員、小林主事、宮崎主事

1. 開会

2. 挨拶

藤井委員長より開会挨拶

3. 報告事項

(1) 前回までの編集委員会の概要について

資料1について事務局より説明。

- ・クラウドサービスについて全部会共有フォルダを作成し、運用を開始した。
- ・(仮称)「新たな高知県史へのいざない」については、月1回のペースで

Facebookにて資料調査の状況などの紹介を始めた。

・資料調査の成果報告について、調査等を行った各地域で成果報告会を開催する形は、今後も継続していく。また現在調整中だが、今年度は安芸市およびNPO法人と共催の形で、近代部会が合同調査を実施した安芸市にてシンポジウムの開催を予定している。

(2) 高知県史の掲載内容に関する主なご要望

資料2について事務局より説明。

・市民・県民の関心も高いことが予想されるため、よさこい祭りについて高知県史で調査をして、取り扱っていただきたいとの声があった。

・幡多地区の歴史については、夏の合同調査にて近代部会が四万十市や土佐清水市等で、旧役場文書の議会議事録の調査や史談会との交流を行った。また現代部会でも移住・移民の関係者へヒアリングをするなど、継続的に調査を行っている。

・県民から資料情報をいただき、調査に伺うこともあり、貴重な情報となる可能性もあるため、今後もそういった活動を継続していく予定である。

(3) 各専門部会の活動状況報告について

【古代・中世部会】

資料3-1について井上委員より説明。

- ・古代中世部会を2回開催。主に資料編1に向けた作業の具体化を進めた。
- ・古代については準備が進んでおり、テキスト校正等を進めている。
- ・中世については古代ほどは作業が進んでいないが、旧県史における近世の資料集を効率的に組み直す方法や今後の作業方針を定め、本格的に開始しつつある。
- ・7月に考古、民俗、古代中世の3部会でそれぞれに共通する調査項目等について情報共有を行った。
- ・資料の校訂作業について、委員と事務局とで役割分担を決め、月1回程度の頻度で進捗管理することになった。
- ・9月には岡山県にある林原美術館にて、長宗我部に関係する石谷家文書の全点を調査、熟覧したことで、これまでの解釈等について積極的な議論を行えた。
- ・編さんに向けた作業として、旧県史に収載されている内容の点検に加えて、自治体史のPDF化及び「土佐國編年史料」等の目録化といった旧県史以外のデータについても、準備を進めている。
- ・今後の予定では12月に中世史料の校訂状況の進捗確認を行うとともに、部会を年内に開く予定。また、長宗我部関係資料について調査方針等の議論を年内には着手予定。

【近世部会】

資料3-2について渡部委員より説明。

- ・第6回近世部会調査を実施し、安芸市歴史民俗資料館所蔵の土居付家老の五藤家に伝来した大量の史料について資料選別等を行った。
- ・第7回近世部会調査では、道番庄屋を務めた三谷家に伝来した史料である約3,700点の三谷家文書及び郷土大石家に伝来した約200点の大石家文書の調査を実施した。調査方法として部会委員、県外の大学院生、県内の大学生等総勢40人で撮影やカード採録等を行い、県内学生の人材育成にもつながった。
- ・委員の個別調査としては馬路村魚梁瀬における山番の史料や、民権運動あるいは地主制の史料として活用されてきた高知県立歴史民俗資料館所蔵の堀見家文書、土佐藩の儒者における学問のあり方や学問的な交流等が記された高知市民図書館所蔵の奥宮文庫・宮地家史料についてそれぞれ調査を行った。
- ・今後は12月に第8回の部会調査を予定しており、3月は北川家文書を他部会及び地元の博物館の協力を得ながら調査を行う予定。
- ・資料編1の刊行が近づいているため、12月からは目次案あるいは収載する史料の具体的な選別を開始する予定。

【近代部会】

資料3-3について羽賀副委員長より説明。

- ・6月に第9回近代部会、9月に第10回近代部会を開催し、資料編2の目次構成案の検討と担当委員の確定及び史料の翻刻について検討を進めた。
- ・9月17日から19日までの機関で第5回近代部会合同調査を四万十市、大月町、土佐清水市にて実施した。17日は四万十市にて蕨岡村役場資料の調査や、四万十市史編さん室や元市長の田中全氏から聞き取り調査や意見交換を行った。翌18日は大月町役場の議会資料の調査や土佐清水市内で巡検、最終日19日は土佐清水市議会事務局の所蔵資料の調査を実施した。また、土佐清水市の郷土史同好会の方々と懇親会を開き、充実した意見交換を行った。
- ・資料編の編集作業として構成案の検討が概ねできてきており、来年度早々に構成案を確定の上、編集委員会にて報告の予定。
- ・既存の資料集に採録されてある資料の取扱い方や、県外で主たる活動をした人物の資料の取り上げ方をこれまで議論しており、今後も継続的に審議していきたい。
- ・各委員や事務局の予備調査について、6月には四万十市・土佐清水市、7月は佐川の青山文庫、10月には土佐市立市民図書館にて北原村役場資料の調査を実施した。
- ・今後は12月に第11回近代部会、2月8日午後に安芸市と共同でシンポジウム、3月27日から29日にかけて第6回合同調査、30日に第12回近代部会を予定している。

【現代部会】

資料3-4について大門委員より説明。

- ・資料編の構成について県全体編と地域編の2部での構成を検討している。県全体編では第1巻を今現在調査中のものの重点収録、第2巻は戦後前半期、第3巻は戦後後半期を予定している。また、地域編では第1巻は県西部、第2巻は県東部、第3巻は県中部を予定している。
- ・第1巻における重点収録の柱は、地域と自然・災害、政治の動向、医療・保健・福祉、教育と文化・社会、移動と移民の5つを想定している。また、地域編では幡多地域を中心とした県西部で各地域ごとの様々なテーマを取り上げる「地域で生きる」、川や山や海といった「地域の生態に根ざした生業」、そして「自治体広報誌」の3つを柱とすることを予定している。
- ・上半期の活動は、8月の合同調査が台風の直撃を受け中止となったため、オンラインにて8月30日現代部会を実施し、資料編の構成等について議論を進めた。
- ・年内には初巻の仮目次各項目のおおよそのボリュームを決めて、掲載する資料の収集を始められる予定。
- ・資料調査状況は県内外ともに旺盛に実施。特に県内の諸団体への調査を精力的に行っている。また、県外では県人会をはじめとして、国内外の移動や移民についての調査も

進めている。

・ 今後は第1巻資料編の分担を定め、凡例等を作る予定。また12月26日に第7回現代部会を対面で開催予定。さらに令和7年2月から3月に、中止となった県東部の室戸・安芸の調査を実施予定である。

・ 現代部会の政治・行政の担当委員が交代し、9月より着任。

【考古部会】

資料3-5について松田委員より説明。

・ 7月から10月は資料編1に掲載する遺跡の基盤情報調査と掲載遺跡の絞り込み、編集スケジュールと版面の基本フォーマットの検討を主に行った。

・ 部会委員の活動は7月に他部会や他機関と共通・関連する資料についての協議、8月は成果や来年度計画について部会、9月には古代瓦や近世墓地、戦跡や資料の3次元化に向けた調査・実験を実施した。今後はドローンによる山城調査、古墳石室の3次元化実験、物部川旧流路の調査、宿毛貝塚の遺物調査、県外の学史資料調査等が予定されている。

・ 事務局の作業は、主に掲載遺跡の絞り込み等を行っている。掲載遺跡については旧石器時代から古墳時代までの絞り込みの候補が決定した。候補については今後、包蔵地の基盤情報をもとにした調査カードの整理と部会委員による検討を経て、資料編の執筆を行うことになる。

・ 資料編の版面フォーマットについて説明。中高生にも分かりやすい記述を心がける。

・ 今後のスケジュールの検討を行い、R7年度は旧石器時代と縄文時代を形にして、R8年度は弥生時代と古墳時代を進める予定。また、資料編第1編の編集作業と資料編第2編の調査工程が重複するため、2割弱程度前倒しで計画を進めることを予定。また第3編までも見越した計画の検討も予定している。

・ なお、補助員を雇って埋文センターの一室で出土土器の掲載用図面を作成中。文献史学でいう翻刻のような作業。

・ 県史刊行物は縄文時代の不動ガ岩屋洞窟、古代寺院跡の野中廃寺について執筆予定。

【民俗部会】

資料3-6について常光委員より説明。

・ 7月2日に資料編1の主担当が集まり、担当者会議を実施。そこで、第1章民話、第2章民謡、第3章地名という章立てを決定し、それぞれ300ページを目安として進める。また、次回の担当者会議では「ことばと伝承(仮題)」という題名について検討を予定している。

・ 「民話」は昔話集・伝説集等の単行本のリスト化がほぼ終わり、市町村史掲載の民話について整理をしている。また、市原麟一郎先生が生前に記録した録音テープについ

て、劣化が激しいためデジタル化を予定。伝説については、掲載候補を絞り現地での写真撮影を始めている。

- ・「民謡」は高知県民謡緊急調査の成果を基に、構成や掲載する民謡の検討及び代表的な民謡については楽譜化も検討している。

- ・「地名」は多くの方の協力をいただきながら、精力的に調査を進めており、約 500 項目の解説を予定。

- ・本編第 1 巻の構成について「山村」「平地農村」「町と都市」「海村」の 4 つ及び序論で高知の自然と風土の特徴を掲載することを予定している。

- ・10 月 31 日から 11 月 4 日に実施した、東洋町での合同調査について報告。

- ・民俗部会は 7 月 31 日、9 月 21 日に開催し、次回は 12 月 23 日に開催予定。

【文化財部会】

資料 3-7 について岡本委員より説明。

- ・1 冊目に資料編 3 <無形文化財・民俗文化財・記念物・文化的景観>で、調査が急がれるものを先に持ってきた形になっている。そのため、2 冊目に資料編 1 <有形文化財(美術工芸品)>、3 冊目に資料編 2 <有形文化財(建造物)・伝統的建造物群>の構成を検討している。

- ・指定内容があいまいなものは、文化財保護審議会や歴史文化財課と協議していく必要がある。

- ・文化財部会では資料編 1 巻ごとに他部会より少ない 4 名くらいに委員委嘱を予定している。代わりに調査協力員を増員して対応予定。

- ・他部会との分担として棟札や建物の落書き、史跡、遍路、自然災害、産業遺跡、戦争遺跡等各部会と調整をはかりながら調査を進める予定で、共同調査の調整も必要と考えている。

(4) 令和 7 年度予算要求の概要について

(5) 広報啓発、人材育成について

資料 4・5 について事務局より説明。

- ・現状の 6 部会に令和 7 年度より新たに設置する文化財部会を加えた、計 7 部会の調査活動及び近世資料編 1 の編集等に必要な経費を各部会の要望をもとに積み上げ、要求している。

- ・広報啓発では昨年度に引き続き、文化広報誌とさぶしの刊行を予定している。

- ・また、事業報告書について原稿の作成依頼を各部会に行った。また、Facebook にて月 1 回の頻度で資料調査の様子の記事を投稿している。

- ・人材育成では「資料撮影編」と「史料解読編」について歴史資料調査隊養成講座を実施した。講座の内容は好評で、修了者は日々の調査補助として従事いただいている。

4. 協議事項

(1) 「高知県史」資料編の副題について

資料6について事務局より説明。

・各部会の回答について古代中世・近世の二部会は、中表紙・背表紙ともに副題は必要なし。近代部会は中表紙のみ副題を記載。現代・考古・民俗については背表紙・中表紙ともに記載を希望。

(藤井委員長より)

・背表紙に関連して、高知県史の本編あるいは通史編と資料編に分けるか、また高知県史全体での通し番号を打つかについて決めることが必要ではないか

⇒次回編集委員会にて再協議の予定。

(2) 「新たな高知県史へのいざない(仮称)」の題名案について

資料7について事務局より説明。

・タイトル案は「ときのあかし」「高知の歴史世界へようこそ」「新たな高知県史へのいざない」の3つ

⇒「ときのあかし」を基本路線として、漢字またはひらがな及び副題や説明文については事務局にて検討。